

神戸小学生惨殺事件

告発

特別号

警察・検察の不正の
告発を支援する会
代表 後藤昌次郎

電話 03-3369-5625

東京都新宿区下落合
1-7-5 長島ビル3F

追悼

後藤昌次郎先生

神戸事件のA「少年」の冤罪を晴らす再審をめざす闘いを支援してくれているみなさん。

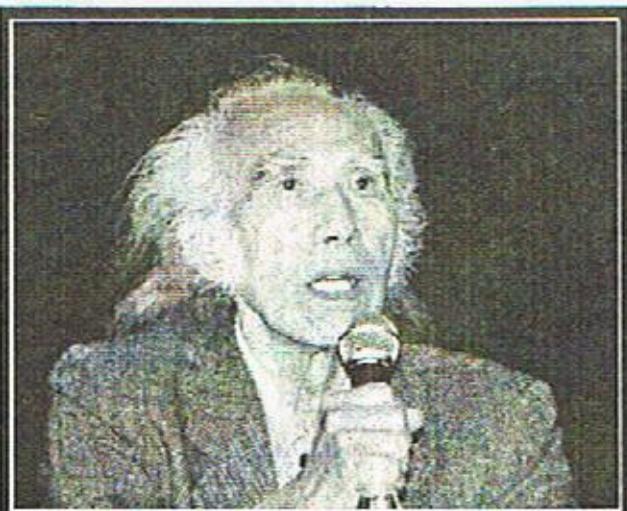
すでにご存じのことと思いますが、当会代表で弁護士の後藤昌次郎先生が、去る二月一〇日に慢性心不全・腎不全でお亡くなりになりました。そのひと月前に病院にお見舞いにかがった際には、とてもにこやかな顔で迎えてくださっていただけに、知らせを聞いたときの驚きと信じられない思いを忘れることはできません。亡くなられて四ヶ月になる今もなお、私たちは深い悲しみにおそわれます。

有名な松川事件をはじめ数々の冤罪

事件に取り組んでこられた後藤さんは、「非常にむごたらしい、残忍な、許すべからざる事件が起きたとき、まず私たちが考えなくてはならないのは、無実の人に重大な犯行の責任を負わせるようなことがあってはならないということです」という強い信念をもっておられました。かの神戸酒鬼薔薇事件に直面したときも、多くの人がA少年を犯人だと信じて疑わなかったなかで、後藤さんはその信念を貫いたのです。

A少年を犯人と断じた神戸家裁の決定文に、A少年の自白が警察官の偽計にもとづくものであったと書かれていることを、後藤さんは見逃しませんでした。直ちに事件についての綿密な調査と、神戸家裁の審判の詳細な検討をおこなった後藤さんは、神戸事件が一大冤罪事件であることを見抜かれたのです。

しかしA少年本人もご両親も裁判で争うとはならず、医療少年院送りというかたちでこの事件の結着がつけられようとしています。そこで後藤さんは、



告白を強要した警察官・検察官らを「犯罪者」としてみずから告発し、法廷にもちこむということを考えつかれたのです。「神戸家庭裁判所の決定要旨を見ればすぐわかるように、少年をだまして嘘をついて、そして絶望させて、『告白』させた。これは疑うことのできない事実なんです。それなのに、われわれは黙ってはいなくてはいかんのか、そんなはずはない。そこで、告発しようと考えた」(神戸酒鬼薔薇事件にこだわる理由)のです。こうして、A少年の冤罪を晴らすための「告発」の闘いが始まったのでした。「人権を最後に支える真理と道理を社会的力に」と訴えながら。

検察は不当にも告発を認めず、またそれをふまえての付審判請求についても裁判所が棄却したために、残念ながら法廷で冤罪を晴らすことはできませんでした。しかし後藤さんはその後も粘り強くたたかいます。事実上の再審請求の申し立て、さらに、「有罪」をみずから認めたA少年の弁護団の対応をめぐる兵庫県弁護士会への「紛議調停の申し立て」…。

また、神戸事件以外でも後藤さんは、「日の丸・君が代」を強制した石原都知事らを告訴・告発する闘いの先頭に立ち、さらにまた、「反戦平和を求める運動でも闘い続けたのでした。

「戦争と冤罪は国家権力の犯罪だ」——この信念を最期まで貫き通した後藤さんの姿は、心ある人々のなかでいつまでも生き続けその輝きを失うことはありません。私たちは後藤さんのご遺志をひきついで、A「少年」の再審を求める闘い

を今後も粘り強く進めていくとともに、国家権力による「戦争と冤罪」を許さない闘いをも担っていかうと、今あらためて決意しています。

後藤先生。どうぞ私たちを見守っていてください。

〔後藤昌次郎先生を偲ぶ会を開催〕

さる三月二十七日に、東京・八重洲のホテルで、これまで私たちの運動を支えてきてくれた方々によびかけて後藤昌次郎先生を偲ぶ会を開催しました。東日本大震災の直後という大変な中ではありましたが、後藤先生が神戸事件の告発の運動を開始されて以来、告発人とともに神戸現地に赴いたり私たちの集いで壇上に立ってお話してくださったりした皆さんが、万難を排して集まってくれました。



後藤さんを偲んで集まってくださったみなさん



挨拶する伊佐さん(左)と前田さん

元大阪経済大学教授の里上譲衛さん、長崎大学教授の戸田清さん、専修大学教授の矢澤昇治さん、弁護士渡辺千古さん、同じく弁護士の永見寿実さん、ノンフィクションライターの石上正夫さん、そして私たち事務局の手伝いをもしてくださった市民の方々などです。

凛々しいお顔で聴衆に語りかける姿の後藤さんの遺影をかけた会場で、まず参加者一同で遺影に向かって黙禱を捧げました。その際、当初から私たちの運動に加わってくださりながらその後お亡くなりになった方々のお名前も、司会から紹介されました。永く当会の代表を努めてくださった元フェリス女学院大学学長の弓削達さん、牧師の妹尾活夫さん、元

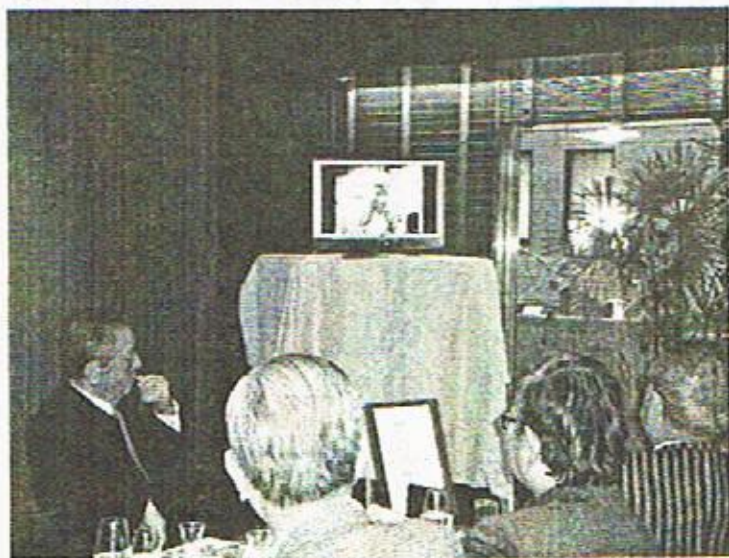
後藤さんと親しくされ、この運動でも常に後藤さんと行動を共にして

くれた作家の伊佐千尋さん。後藤さんのよびかけにこたえて、四国高松の地で、神戸事件は冤罪だと訴えてこられた元裁判官で弁護士の生田輝雄さん。書面の検討や提出を一緒に担ってくれた弁護士の前田知克さん。また、

毎日新聞記者の品野実さん、国語学者の壽岳章子さん、大須事件元被告の酒井博さん、画家の戸井昌造さん……。

黙禱の後、私たち事務局で今回つくったDVDを上映しました。これは、九八年に大阪高検に告発状の提出に赴く際の後藤さんらの写真や、後藤さんが集会で力強く発言する動画などを組み合わせたもので、最後に、神戸現地での集会後の懇親会で後藤さんが「家路」(ドボルザーク「新世界より」第一楽章)を草笛で吹くシーンで終わるものです。これまでの闘いを思い出しつつ、草笛の清んだ美しい音色に聞き惚れながら、会場の皆さんはなつかしもうに画面に見入っていました。

その後は参加者全員が順番に思い出を語ってくれました。告発の運動に取り組んでいた頃の後藤さんの思い出や、「戦争と冤罪」に象徴される国家権力の犯



DVDから流れる後藤さんの草笛に耳を傾ける方々

罪に敢然と立ち向かい続けた後藤さんの生き様を賞賛する発言、また穏やかで素朴で真正直な人となりをつかしまつ発言などが相次ぎました。渡辺千古さんからは、近親者だけでおこなわれた告別式の様子や最近発刊された三巻本の編集過程の話などを紹介してもらいました。

最後に後藤先生の遺影を中央にして皆で記念写真を撮り、偲ぶ会を終えました。

◆後藤昌次郎著◆

「神戸酒鬼薔薇事件にこだわる理由」『A少年』は犯人か」

現代人文社発行

本体一七〇〇円＋税

「この人を見よ 後藤昌次郎の生涯」全三巻

日本評論社発行

本体各二〇〇〇円＋税

※ご希望の方は当会までご連絡ください。



《後藤昌次郎先生 略年譜》

- 一九二四年 父泰次郎、母ヒラの長男として、岩手県和賀郡(現北上市)黒沢尻町で生まれる。
- 一九三〇年 黒沢尻小学校入学。父の勧めで剣道を始める。
- 一九三六年 黒沢尻中学校(旧制)入学。剣道部に入部。
- 一九三八年 このころから右足関節がだんだん悪くなる。
- 一九四一年 剣道部の合宿中、五年生の先輩から草笛を学ぶ。右足関節を決定的にこじらせ休学。歩行不能に。父死去(享年四三歳)。奇跡的に歩ける。
- 一九四三年 第一高等学校文科入学。寮生活。
- 一九四四年 兵役検査、丙種不合格。
- 一九四五年 終戦
- 一九四六年 一高文科退学・理科入学
- 一九四九年 東京大学法学部入学
- 一九五二年 同大学卒業。司法修習生。
- 一九五三年 川邊弘子と結婚。
- 一九五四年 弁護士登録。松川事件弁護団へ。
- 一九五九年 「松川事件」第一次最高裁判決「原判決破棄、仙台高裁へ差し戻し」
- 一九六三年 最高裁「松川事件」で無罪確定
- 一九六八年 最高裁「八海事件」で全員無罪
- 最高裁「青梅事件」で全員無罪
- 一九八三年 「日石・上田邸爆破事件」東京地裁判決
- 「総監公舎爆破未遂事件」控訴審判決
- 一九九二年 東京弁護士会第六回人権賞受賞
- 一九九六年 東京ドームで草笛コンサート
- 一九九七年 神戸で「酒鬼薔薇事件」発生。A少年逮捕。
- 一九九八年 神戸事件で警察官・検察官らを「特別公務員職権濫用罪」で告発。以後神戸事件に全力を傾注。
- 二〇〇四年 「日の丸・君が代」強制で石原慎太郎東京都知事や教育長を告訴・告発。
- 二〇一一年 二月一〇日、死去。享年八七歳。